

2023



AWARAYAMA
VILLAGE

CONTENTS

目次

01	俵山ビレッジ	
03	PART 1	
	PEOPLE	吉武 大輔 三ツ木 あずき 井上 恵輔
06	西の横綱 俵山温泉	
08	PART 2	
	PEOPLE	浅沼 和馬 西田 あかね
10	俵山ビレッジMAP 2023	
14	PART 3	
	PEOPLE	浅沼 美祐 町田 美由紀
16	Entrance	
18	PART 4	
	PEOPLE	伊東 美佳 井上 芽衣
20	MURABITO	
21	関わり方いろいろ	
22	滞在部屋紹介	
24	PART 5	
	PEOPLE	鎌形 泰 鎌形 美砂子 倉谷 賢人 石田 香織
28	meguri	
30	PART 6	
	PEOPLE	翁長 史佳
31	俵山ビレッジの暮らし	

発行

株式会社 Community Consulting Japan

〒759-4211 山口県長門市俵山5183-3

Tel. 070 9217 1208

Mail info@ccj.works

Web www.ccj.works

この冊子で使用されている写真の多くは
浅沼和馬が撮影したものです

豊かな湯治場の町に生まれたコミュニティ

人と地域が育まれる 持続可能な未来へ向けて

自分の役割を生きること、仲間の可能性を引き出すこと。

すべての存在は、繋がりの中で生きていること。

今ここから、人・社会・自然が調和した命ある営みを、次の世代へ。

共に暮らし、繋いでいく。



倭山ビレッジ



「俵山ビレッジ」とは

山口県長門市俵山温泉地域において「コミュニティを通じて、人をつくる」を
理念に運営されています。

秘湯を守る自然豊かな湯治場に暮らす人々と共に、
持続可能な地域の未来づくりを目指しています。

深い信頼関係と絆で結ばれた、血縁を超えた家族のような繋がりを生きる。
ひとりひとりが自分自身を生きながら、大切な人達に貢献し、地域を活かしていく。

百年後、そしてその先へ。
人格(徳)と能力(才)を磨き、ここ俵山を拠点に調和のある暮らしと未来のために。
日本の風土や文化を受け継ぎ活かし、次世代を担う人材の育成をしています。

これから俵山ビレッジでは
「健康と子育てを軸にした、人・地域・事業づくり」を進めていきます。

そしてすべては人づくりから始まり、人づくりで続いていきます。

今はまだ、静かな小さな一団かもしれませんが。
この地域から始まる大きなひとつの営みを、ご一緒できれば幸いです。

吉武 大輔

依山ビレッジ 発起人

つながりの中で生きる

2023年夏至、「人生第三章の始まり」と呼べるほどの変化を経験しました。何を基準に生きていけばいいのか分からなくなっていたその時期に、支えになってくれていたのが、依山ビレッジの家族です。もしあの時、都会で一人暮らしをしていたり、心から信頼ができる仲間や家族が周囲にいなかったら、立ち直れないほどのダメージを受けていたかもしれません。「人はつながりの中で生きている」そのことを改めて体験させてもらったこと

よしたけ だいすけ 1986年山口県出身。大学在学中にシェアハウス事業を開始、コミュニティを通じて人が育つことの奥深さや面白さを体験する。大学卒業後、一度も就職することなく起業し、累計5冊の出版、7社の創業、143のプロジェクトの創出、1500回を超える講師経験、約1万件の個人相談を経験する。次世代リーダーの育成と継承され続けるコミュニティの雛形づくりをミッションに活動中。座右の銘は、「健康で、愉快地に、豊かに、仲良く仲良く」

で、新しい人生の扉が開いていききました。依山ビレッジの家族や仲間、MURABITOや関わってくくださる皆様、いつも本当にありがとうございます。

2023年の出来事とえば、meguriのクラウドファンディング達成の話を欠かすことはできません。多数の応援を頂き、本当にありがとうございます。最終日の朝の時点で、約200名の方々から約400万円のサポートをいただくも、目標まで200万円弱足りていない状況でしたが、その日の奇跡は誰も予想していませんでした。

なんと最終日だけで100名を超える方から約220万円のご支援を頂き、当初目標としていた600万円を期限内に達成したのです。物語はそこで終わらず、最終的には「総勢373名、総額717万7777円」という結果となりました（数字の並びも偶然です）。

ここでも、人と人とのつながりの温かさや信頼関係に救われたのです。

皆様のお気持ちとご支援いただいたお金で「いのちのあそび場

meguri」へナノミストサウナを導入することができ、また一つ、依山に魅力的なコンテンツが生まれました。依山の極上のお湯と合わせてご堪能いただけますと嬉しく思います。

依山と共に描く未来

2024年以降は、依山ビレッジ全体の戦略や設計の見直しに注力しながら、子育て世帯の移住に向けて必要な準備を整えていく予定です。同時に、地域からの事業承継や事業連携の話なども増えていくと思えます。皆様に見守られ、支えられ、今日も依山ビレッジは「健康で、愉快地に、豊かに、仲良く仲良く」生きています。どうぞ湯治にお越しください。依山ビレッジ一同、心よりお待ち申し上げます。



三ツ木 あずき

俵山ビレッジ 管理人

故きを温ねて

2023年は俵山のお祭りやイベントの運営に多く携わらせていただきました。今までのお祭りの様子もわからず、少子高齢化や湯治客の減少で状況が刻一刻と変わる時代に、どんな風景を作り上げるのが正解なのか：たくさんの方に話を聞き、どれ

だけ地域の皆さんが俵山のために尽くしてきたかを知りました。そしていかに私たちがその恩恵に預かっているかも分かりました。知るほど歴史深く、たくさんの人に愛されてきた俵山を目の当たりにし、そのパトンを握ることがとても怖かったです。この辺りから、私の俵山ライフはゼロからスタートしたような感覚でした。

覚でした。

お祭りを通して俵山を知り、計り知れない可能性を感じ、昔から伝わる知恵や歴史などたくさんのことを教わりました。新しいことを生み出すことは面白いけれど、古くから伝わってきた大切なことを知っていくことはそれ以上に面白いです。歌舞伎や自治会活動も同様で、「日本文化」「俵山の伝統」として人々が大切にしてきたコトを、まずは一つ一つ学んでいきたい。そして、それを継続可能な形で次の世代へ守っていききたい。そんなことを強く思う1年間でした。



「故きを温ねて、新しきを知る」ということわざに則りながら、俵山ビレッジや地域における活動を2024年も続けていきます。

新しきを知る

「石の上にも三年」が過ぎ、自分の5年後10年後を考える時、当たり前のように俵山にいたることを想像するようになりました。年間を通して行われる数々の地域行事や催し物にも参加することができ、俵山での暮らしが板についてきたように感じます。やはり重ねて思うのは、俵山に古くからある伝統や文化を、今生きている

方々から学び、それを残していくこともとても大切なことだということですね。しめ縄の編み方や巻き方、祭りのルーツ、街の歴史など、口伝えにしか残っていないことがたくさんあります。100年もの間たくさんの人が大切に伝え、守ってきたその想いを切らさぬよう、大切に守り、伝えていきたい。本物を次の時代へと、繋げていきたい。

俵山の暮らしは、自然の摂理に合った、かなり野生的な生き方を皆がしているように感じます。4年目は私も野生的な暮らしにもう少し近づいてみたい。その先にどんな新しきもがあるのか。とても楽しみです。

みつぎ あずき 2001年宮崎県生まれ。地域創生を学ぶため、2020年4月に北海道の大学へ進学。コロナ流行のため想像していた学生生活が送れず、面白いことを求めて出た旅の最中に俵山に出会い、大学を退学し、俵山に移住。俵山ビレッジの立ち上げに従事。

現在はゲストハウスcococaraの運営をしたり、地域に1軒しかないスナックでチーママをしたり、俵山歌舞伎を踊ったりしている。ビールと祭りと馬が好き。



井上 恵輔

ちいき不動産 代表

挫折と教訓

人生で最も躍動した年となった2023年。2020年10月に不動産会社を退職、その翌年1月26日に俵山へ移住。俵山でなにか成し遂げてやるぞ！と、初めは意気込んでみたが：もれなく撃沈…。人生で初めて大きな挫折を味わった。そこから、旅館のアルバイトをはじめ地域の困りごとなどを有償無償問わずなんでも引き受けていくと、徐々に自分の『道』が拓けていく感覚が！自分のやりたいことではなく周りに求められること、自分にできることを行うこと。俵山に移住し初めに体感した教訓。

そして、2021年の12月から始めたジビエの解体処理の仕事。2年

福岡県久留米市出身。福岡の大学卒業後、山口県の不動産会社で売買を経験し、宅地建物取引士を取得後に退職。2021年1月末から山口県長門市俵山に移住。現在は不動産業、ジビエ料理と解体処理・集落支援員の3つの軸で活動中。

間で200頭を超える獣を捌き、ジビエ料理で人に喜んでもらうことで『ジビエ』が生涯のアイデンティティに。2023年10月には罫の資格も取得しハンターへの第一歩。2024年は肉の自給に挑戦し、命や肉と向き合う体験型プログラムの開発に挑戦したい。

まちの大家さんスタート

地域で活動する中で徐々に不動産についての相談が増え、ちいき不動産(個人事業)としての仕事も生まれてきた。

俵山のような中山間地域では不動産業者を挟んだ取引より個人間売買や身内か知り合いでの取引が多い。困ったときに遠くのプロではなく近くの身内を頼る特性であり、地域では「関係性の距離」が大切。それは良いことも多い反面、不確かな情報が出たり、必要な人に情報が届かない一因でもある。多くの人に適切な情報やスムーズなやり取りを提供する不動産業者があれば、地域に人も入りやすく子育て世帯も増え、空き家問題解決の助けにもなると思う。

ちいき不動産では、家をそれぞれ個別に考えるのではなく、まち全体を一つの家としてとらえて活動することを大切にしている。

また、2023年4月からは集落支援員という役を拝命。「集落の現状把握や話し合いの促進などの集落問題対策」が役割。具体的には週に2日間民間の公民館に出勤し、地域の課題に取り組む日々。そのような国の制度も知らなかったが、毎日ちゃんとやることを積み重ねているとある日突然、向こうから道がやってくるという奇跡を、俵山ではよく目の当たりにする。

来年に向けて

昨年「名もなき移住者」から「集落支援員」へとジョブチェンジに成功することができ、2024年は「まちづくり」により一層力を入れていく。日本の地域はどこも人が減り、存続が

危ぶまれている。そのような地域でDIYしたり、ワークショップを開催したり、自分たちの手で暮らしを作ることを楽しく学ぶ。生活の費用も抑えて豊かに暮らす体験を皆に伝えていく。また、地域に眠る建物の活用や既存住宅の流通を促進することで、家もお金も人も動き、地域の活性化や社会への貢献ができるはず。そういう思いでこれからも活動していきたい。





俵山歳時記

能満寺星祭

ひな祭り

温泉祭り

正福寺親鸞聖人生誕祭

里山ローズ

ほたる祭り

ソフトバレーボール大会

納涼祭

河川プール

合同運動会

文化産業祭

正福寺報恩講

しめ縄づくり

浅沼和馬

映像クリエイター／廃材アーティスト

一人称が『2人』になった年

2023年の4月から大羽山という温泉街近くの地域にビレッジメンバーの美祐と2人で住み始めました。谷間の人の気配がないポツンとした場所で、川のせせらぎがあって、夜に

は鹿の鳴き声が沢山聞こえます。ここで四季を感じながら過ごしてきました。

6月には入籍し、「自分は30代後半くらいになったら山で家族と暮らすんだ」とそんな風に思っていた遠い夢が気づけば叶っていました。1年間を振り返ると、自分の人生として大きな変わり目となる1年でした。

これまで一人で旅をしながら自由に暮らしてきましたが、現在は2人となって生活や行動も変わり、依山ビレッジの皆と共に暮らしています。県外へ行くこともほとんどなくなり、地に足をつける1年。

プロジェクト／仕事について

6月は廃パレットを用いて高床式のニワトリ小屋を構想、制作。見た目もファンシーでありながら、機能的な小屋を目指しました。

8月には土を用いたピザ窯、アースオーブンの制作を決定。半球体の可愛らしい見た目ながら抜群の保温性を誇るピザ窯と楽しい作業工程が色んな人を魅了しました。

映像制作としては結婚式のエンドロールムービーに挑戦してきました。当日の思い出を撮りながら編集し、その日のうちに作品として上映するもの。やりがいを感じます。

1位はやはり依山公民館での婚姻届の提出日。雨が降り続いた1日ながら提出に行くときに急に空が晴れて、公民館の皆さんが総立ちで祝福してくれて、色んな人たちが駆け寄ってきて。

今年の思い出ベスト3

2位は依山ビレッジでの沖縄旅行。毎年行っている沖縄のくまさんのお寿司に感激、涙しながらお寿司を食べました。皆で過ごす県外での時間はとても有意義なものです。

3位は依山納涼祭。毎年お盆頃に



なると行われる夏のお祭り。当日は雨ながらも準備をすすめ、その雨が降る中皆が笑顔で踊る姿はこの町の希望が見えたなと思う次第。充実した1年になりました。

あさぬま かずま 1996年生まれの27歳。秋田県秋田市出身。現在は映像制作・大工作業の分野でフリーランスとして活動中。部屋の内装リフォーム、地域のプロモーション映像が得意。2021年9月から依山ビレッジに参加し、1年目はコミュニティカフェ Entranceの改修担当を行った。



西田 あかね

コミュニティディレクター

念願のいきものがかり

私は幼い頃から動物が好きで、最初に掲げた夢は獣医でした。海外の人たちとコミュニケーションを取るとに憧れ、夢は通訳士へと変わっていきましたが、社会人となり就職してもなお、動物のために何かがしたいという想いは残ったままでした。そんな想いを抱きながら月日が流れていきましたが、今年「いきものがかり」を発足の日常の業務に追われ計画が進まない私を何度もプッシュしてくれた恵輔

にしだ あかね 山口県防府市生まれ。大学卒業後、人材業界にて採用支援を行うと共に人材紹介事業部の立ち上げ・マネジメントを経験。その後、医療系データ会社にてCS調査、マーケティング、営業職に従事。ファミニティリンク(株)設立後、イベント・リトリート事業、コミュニティ・スクール事業の企画・運営を開始。現在はCCJ全体の活動を支援すると共に、2020年12月俵山ビレッジの一員として地域貢献や事業作りに参画。



や、遊び心を沢山取り入れ、鶏小屋と一緒に作ってくれた和馬のおかげで、10月4日に6羽のひよこを迎え入れることができました。残念ながら1羽は天国に逝ってしまいましたが、5羽はすくすくと育っています。鶏と戯れたり、遊ぶ姿を見ながら仕事をしたりする日々がとても幸せです。春には卵が収穫され、食卓も豊になり、お世話になっている方々へお配りする日が来る事を、今から楽しみにしています。そして、いずれこの子たちの命を有り難くいただく日まで、大切に育てながら共に生きていきたいと思っています。



今年には鶏だけではなく、2棟目のシェアハウス「喫茶呼」にも新しい仲間、白龍と黒龍という2匹の猫が家族に加わりました。ケンティと中期滞在者島ちゃんのおかげで猫との共同生活がスタート。実家では自由気ままに猫を育てていましたが、猫アレルギーの住民も多い俵山ビレッジで話し合いを重ね、様々な視点からのフィードバックをもらいました。改めて住民それぞれの暮らしや価値観を尊重し合う大切さを実感しました。

調和と共に

鶏や猫を飼うことで、地域の方々や子供達との交流も増えていきます。滞在者や地域の方々とも、生き物と共に暮らすことを一緒にできれば嬉しく思います。

7年前に設立したファミニティリンクという名前の会社は、家族の様な

コミュニティを繋げていくこと、そして全ての生命が調和して生きることを中心に掲げています。俵山ビレッジや地域で、それらを実践する機会に触れ、家族や繋がりは何か、人間や動物・植物たちにとっての調和とは何かを、仲間と共に深められる日々をこれからも大切にしていきます。



TAWARAYAMA VILLAGE MAP 2023

色々なテーマや機能を持った多数の拠点やフィールドを、地域のご縁をいただきながらメンバーの皆で作っています。
興味のある方は一緒にしましょう！ご連絡お待ちしております。

このページは「ちいき不動産」の井上恵輔が、お世話になっている地域の皆様や大切な物件に思いを寄せて書きました。





シェアハウス

灯炬庵

俵山ビレッジ1棟目のシェアハウス。「灯炬庵」という名前で元はお寺の宿坊として活用されており、「決して消えることのない光」という意味である。

俵山にある正福寺さんから引き継いだ1棟目のシェアハウス「灯炬庵」。守坊さんがとてもとても面白い方で一言でいうと「シャカリキお茶目守坊さん」です!! 実は3人いるのではないかと思うほど行動量が多く一緒にいて楽しい守坊さん。そんな大好きな人から受け継いだ大切な場所。



リトリート施設

meguri



灯炬庵から徒歩3分の場所に位置するリトリート施設。元はみはらし荘という旅館だった建物を前所有者が別荘として購入したものを譲り受けた。



こちらの元オーナーさんは、ポロポロだった家をとても綺麗で気が通っている場所に調えた方です。その理由にすごく感銘を受けました。設計のお仕事で図面をいつもパソコンで描いていましたが、「頭を使っているだけでなく身体を使って実践まですることが大事だ!」とリノベを始められたそうです。10年間、車で約1時間かけて通って、夫婦二人でコツコツと。気が遠くなりますよね。。。ご夫婦とお会いするたびに元気をいただき、パワースポットのような方でした。

ゲストハウス

cococara

半個室が3つあるゲストハウス。中長期滞在の一般の方にも開放している。「cococara物語が始まっていく場所」として名前をみんなで考えてつけました。あなたもcococara自分の物語を始めませんか? 俵山でお待ちしております。



元オーナーさんのご両親は町の湯で会った行くところがないハワイアンと仲良くなり、この物件に住ませてあげた、縁を大切にされる方だったそうです! 元オーナーさんも会うたびにお惣菜をくださる優しい方。手作りポテトサラダが美味しくてまた会いたいなぁと心寄せてます。。。引き継いでくれる方がいて嬉しいというお言葉を聞き、よかったなぁ、と思えました。



BEFORE

AFTER

3部屋あるうちの真ん中の部屋「ぬい」。古材を使って天井をデザインし壁には珪藻土を。仕事もできるように簡易的デスクも制作し、流木はアーティスティックに活用。



BEFORE



AFTER



BEFORE



AFTER

コミュニティカフェ

Entrance

民泊/飲食店/施術サロン/コワーキングスペースといった多機能複合施設「コミュニティカフェEntrance」。ここで面白いイベントが生まれ地域の中と外との縁が深まる場所。俵山の「裏入り口」の要にある場所として「Entrance」と名付けられた。

俵山で一番盛り上がっていた旅館のオーナーさんが住んでいた2棟のお家を引き継いだ場所。広島出身で俵山に来られたので広島屋旅館と名付けられました。学生のチャレンジする場として、山口大学リノベ部に設計から施工の手伝いまで協力してもらい作り上げた建物です。



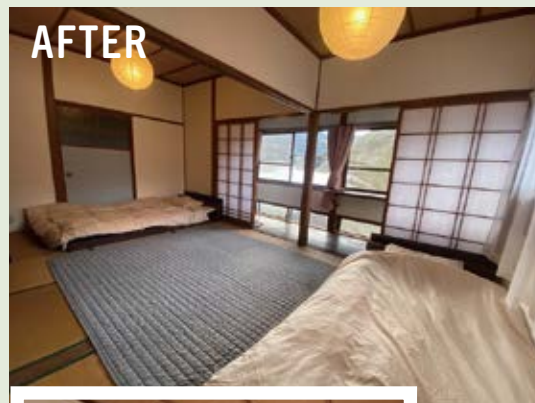
AFTER



BEFORE



昨年の夏に講師を招いて制作した「アースオープン」。地元の土や藁などの材料を使って製作。このオープンで作られたピッツァアアはゼッピンです!!!



AFTER

kuleana (仮)

灯炬庵からは徒歩20秒、ゲストハウスcococaraからは徒歩2秒の好立地物件。2階はスタッフルームとして改築し、1階は用途未定。店舗開発をやりたい方は一緒に俵山でやりませんか？どしどしご応募お待ちしております。

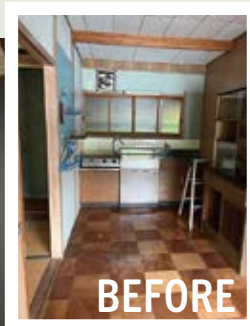


BEFORE

住民のあずきを中心にボラスと協力をして2階をスタッフルームとして改築。壁に漆喰を塗りカウンターを設置して仕事もできる素敵な部屋に。



AFTER



BEFORE



解体予定だった建物を地域の方からのご縁を紡いで残すことができた建物。こういった地域で新しく建築することは滅多にありません。使えそうな建物はなるべく引き継ぎ残していきたい、地域の空き家は宝物。そんな思いが届き叶った家。



シェアハウス 喫茶呼

ビレッジ2棟目のシェアハウス。元々住民が4人住んでいたが現在は「仕事ができない猫カフェ兼シェアハウス」として住民の間でプチブーム。仕事をせずに猫に癒されたい方はどうぞお立ち寄りください。

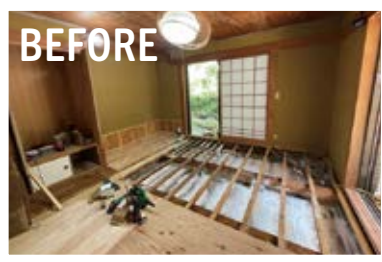


相続した物件をなんとか手放したいという声がどこからかビレッジに届き、ご縁となった建物。相続の関係で売却が中々難しかったが不動産専門知識によって前に進むことができた。知る人ぞ知る秘密の地下室があり、これからおもしろおかしく開発されるとかされないとか…

シェアハウス

きのこ(仮)

ビレッジ3棟目、初の女性専用シェアハウス。1階は鉄骨2階は木造のハイブリッド建築で洋風の内装にミニ螺旋階段と洋館チックな建物となっている。



シロアリ被害で床はベコベコの状態からリノベーションによって板の間を再生。畳を剥ぎ根太から悪い所を交換。できるだけ自分たちで物件再生を行う。

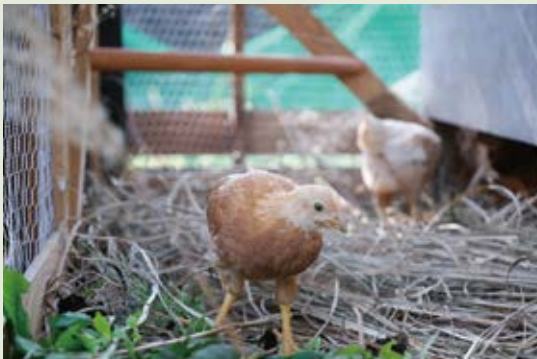


屋根が雨漏りで大規模に抜け落ち、中の荷物はそのままの状態譲り受けた物件。屋根はDIYで修繕できないためいつもお世話になっている業者さんに依頼。この業者さんはEntranceがまだボロボロの状態の時から話を聞いてもらっており、この人なくしてビレッジの建築なしと言っても過言ではありません!! いつもありがとうございます。

畑付きの家として取得し農作物を作っていた場所の奥にニワトリ5羽のこけこっ公園が誕生。ビレッジ内の食料自給率アップを目指して生き物と暮らす公園。

体験施設

HANARE



元所有者の方との思い出は、ご主人さんがベッドから落ちた時に連絡がありその時ビレッジに滞在していた方と助けに行ったこと。そんな関係から不動産の相談をいただいた物件。作物を作るために地域の方から農機具を頂くなど地域との繋がりの場ともなっている。ここで畑仕事をしているとよくお声がけいただけます。

浅沼美祐

児童養護施設職員・チャイガール

地域で子どもを育むコミュニティづくり

俵山に移住して2年目。プライベートでは春に湯町の隣の大羽山にある古民家に引っ越し、俵山ビレッジのメンバー浅沼和馬と6月に入籍しました。新しく夫婦生活が始まった年となり、人生で大きな転機を迎えました。俵山出張所にて婚姻届を提出した際は、その場にいた公民館の方々や地域の方がこれは一大事と集まり、みんなで記念撮影をする事態となりました。嬉しいことに、夫婦になって以前より一層、地域の方との繋がりが深まり、家族ぐるみのお付き

あさぬま みゆ (旧姓:安藤)1987年生まれ。千葉県習志野市出身。早稲田大学社会科学部卒。社会福祉士、保育士。子育て支援を軸に里親支援など福祉の現場を幅広く経験し、地域で子育てするコミュニティ作りを目指している。現在は児童養護施設に勤めながら俵山ビレッジ住人として関わる。趣味のチャイ作りが好評で、チャイガールとしても活動中。

合いをさせていただく機会が増えています。未熟な私たち夫婦ですが、仲良く楽しい家庭を築いていきます。これからもどうぞよろしくお願ひします。

俵山地域での活動としては、ほたる祭り、納涼祭、文化産業祭など、俵山の年間行事のお祭りでチャイガール(インド発祥のスパイスミルクティーの店)を出店させていただくのがお馴染みとなりました。その他、近隣地域や俵山ビレッジのイベント等で出店しています。

本業は児童養護施設の児童指導員として、事情があり家族と離れて生活している子どもの世話をする仕事をしています。俵山ビレッジがシンガーソングライターのYOUUさんに「俵山温泉の歌」を作っていただいたのですが、その振り付けを施設の子どもたちにも教えて練習し、納涼祭では伝統の俵山温泉囃子に加えて新しい踊りを披露しました。中高生はお祭りにボランティアとして参加し、出店のお手伝い等で活躍しました。

子どもたちは俵山の行事などでも俵山ビレッジのメンバーと会う機会も多く、顔や名前もよく覚えていきます。特に俵山ビレッジで子猫とひよこ(鶏)を飼ってから、子どもたちがシェアハウスや鶏小屋に遊びに行きたいと言うことがさらに多くなりました。夏はEntranceで巨大流しそうめんのイベントに施設の子どもたちを招待して一緒に楽しんだり、秋はアースオーブン(ピザ窯)で子ども誕生日パーティーにピザを焼いて喜ばれたりしました。今後このような交流の機会を企画していきたいと思います。

施設で生活している子どもにとって、俵山は自分の意志で来た場所ではなく、複雑な背景があり連れてこられた場所とも言えます。子どもたちが自分はこのにいていいと感じら

れるように、安心して暮らしていただけることが大切です。そのために地域に子どもを見守る顔なじみの大人たちが多くいるのは理想的な環境です。様々な価値観を持つ大人との出会いと体験で子どもたちが安心して育まれていくコミュニティを目指すこと、それが自分の役割だと信じて日々子どもたちと過ごしています。



町田 美由紀

コミュニティカフェ Entrance 責任者

1年の湯治をしました

移住してすぐの昨年の夏、それまでの生活の疲れなどからか、足が痛い、咳が止まらない、などの体調不良がありました、「温泉に毎日入る」と決めました！

そして3ヶ月くらいで足の痛みはほぼなくなりました。

それまで少しの痛みや不調はスルーしていたんだと思います。

だんだん微細なカラダの変化にも気付けるようになり、「自分は酵素ジュースを作ったり、野草やハーブを摘んでお料理したり、お茶を飲んだりするのが楽しい!」「生活の動線や自然に優しいこと、自分のカラダが楽なことを考えて収納したり、ものを選んだりすることも好き。」なんていうたわいのないこともわかってきて、俵山でのそういう生活に安らぐし、幸せを感じています。



私は湯治をしたんだなあ。

私にとっての湯治は、自分のカラダと対話して暮らすということ。それが日常生活になりました。

自分のことだけではなく、周りの人のこと。風の変化や太陽の温かさ。とりまくものに今まで以上にたくさんのことを感じています。

俵山温泉にいて癒されて、自分のカラダ、感覚を取り戻し、生かされています。

俵山での湯治。すごいです。

月一開催してきた健康マルシェ

3月から、Entranceを会場に健康マルシェというイベントを開催してきました。

山口に来て知り合ったセラピストさん達を招いて、お客様に施術の体験をしていただきました。

俵山が湯治場として栄えていた頃、町には10軒以上の鍼灸師さんや按摩さんがいたそうです。今でも年間7万人ものお客様が訪れる俵山温泉。1人2人の施術者では心と身体癒しを求める方々のご要望にお応えしきれません。

健康マルシェで繋がってきたセラピストさん達と俵山の温泉と、共にここを訪れる方たちの健康を守るよう、2024年は施術会を開いてご案内していきます。

マルシェもEntranceの広場に畳を敷いて、気持ちよく外で施術を受けられる季節にやりたいな。

俵山の温泉に入って、ご自身に合う施術を受けてください。自分のやりたいことを欲張りに楽しめる健やかなカラダでいきましょう。

まちだ みゆき 東京都大森生まれ埼玉育ち。男子2人の母。家族関係の悩み、自身の体調不良から、ココロとカラダの学びをはじめ。俵山で1年過ごし、日本の先人たちの自然と共にある暮らしや智恵こそ、健康の秘訣と気づき、実践、実験中。
神体(カラダ)を読み、癒し、輝きを増す縁神体療術師。



「いつかやってみたかった」新しい日常に出会う複合施設

Entrance

俵山温泉でリフレッシュしたあとはランチや甘味処、夜にはバーでお酒を楽しんだり、全国のセラピストが集まるイベント「健康マルシェ」で整体を受けたり。

「こんなことやってみたい！」
「私が磨いてきたこの技を誰かに提供してみたい」
いつの日か、と思っていた自身の夢に挑戦したり。

立ち寄れば個性豊かな人々に出会い、世界が広がっていく。
Entranceは、この土地に足を運ぶ人たちにとって、
いつでも帰ることができる「玄関」です。

記事 井上 芽衣

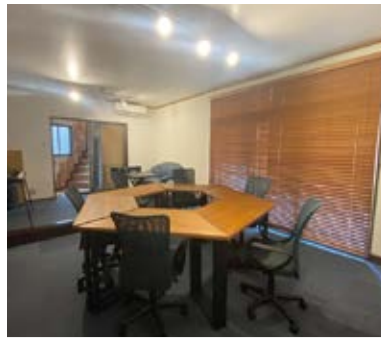




宿泊スペース MUKU

家族や友達と一緒に丸ごと貸し切れる、贅沢な宿泊棟。キッチンやバスルーム完備で静かにプライベートな時間を過ごせます。

1



コワーキングスペース TANE

落ち着いた環境でテレワークや勉強会、ミーティングなどに最適なスペース。登記のみの利用も可能です。

2



オープンスペース

焚き火や BBQ、野外ライブやお祭り、なんでもできる遊び場です。地域の人やビレッジの仲間とピザ窯を囲んでパーティーも!

3

貸切でこんな使い方も

会食・忘年会・新年会・歓送迎会など地域や仲間との集まりに。ご要望に合わせて、Entranceの使い方をご提案します! お気軽にお問い合わせください。



カフェバー

週替わりや日替わりで多様なジャンルの料理人が登場! 健康的で自然なメニューと個性豊かな会話が楽しめます。

料理を提供する側としてお店に立ちたい人にとっても気軽にチャレンジできる店舗です。

4

チャレンジも

依山温泉で湯治をしながらカフェを営業したり、シェアサロンで整体を提供する。そんな夢のような環境で「いつかやってみたかった」ことを実現してみませんか?

P22では滞在部屋も紹介しています。



シェアキッチン

プロ仕様の厨房に予約制のラウンジスペースを併設。お客様の希望に合わせたおもてなしの場を作ることができます。

5



レンタルサロン MICHİ

全国の様々なセラピストが集まるレンタルサロン。施術ベッドもあり湯治客の心身の健康を最高の環境でサポートできます。

6

出展者募集!



Entranceでは料理人やセラピスト、出展者や販売者、起業志望者やイベント企画者、様々な人を募っています。地域で仲間とやりたい仕事をしてみたい人、依山ビレッジに関わってみたい人、大歓迎です! まだまだ可能性が広がり続けるEntrance。対話しながら一緒にコミュニティづくりを楽しみましょう。お気軽にお問い合わせください。

伊東美佳

「ながと暮らし」満喫中

早いもので、長門市の俵山温泉に移住して一年半が経ちました。昨年9月から長門市の地域おこし協力隊「まちの編集者」として活動をするようになったことで、長門市内で開催されるイベントやお祭りへ取材に行か

せていただく機会が増え、だんだんと長門市の地理やイベント・お祭りに詳しくなってきました。海も山もあり自然が豊かで、海の幸も山の幸も豊富な長門市。海に近い市内のスーパには目の前の海で採れた新鮮な魚介類が並び、それは都会だと考えられない光景です。そして山間の俵山はお米もお水も美味しく、野菜も美味しい。

いとう みか 神奈川県出身。東京学芸大学教育学部卒業後、広告代理店に勤務。その後、セラピスト、動画カメラマン、WEB会社勤務など様々な職業に従事する。現在は、地域おこし協力隊「まちの編集者」として長門市の魅力を発信中。また、アロマセラピストとしても活動しており、施術、ハーブ販売、リトリート企画なども行っている。

まちの編集者・アロマセラピスト

柚子やゆずぎち、柿など果実のなる木も身近にあり、お金を介さずいただける食物があるのは安心感につながるんだなと日々感じていきます。梅ジュースや梅酒を作ったり、柚子の酵素ジュースやジャムを作ったり、季節の手しごとでも楽しい作業です。

ここは自然環境が素晴らしく、温泉がある他、春は桜、6月は蛍、夏は紺碧の綺麗な海、秋色鮮やかな紅葉、冬は満天の星空と、どの季節も自然の美しい景色を楽しむことができます。とても豊かな自然環境だなと実感する毎日です。

ハーブを育てる実験中

今年は、Entrance敷地内の一角で、お試しにいろいろなハーブを育ててみました。ミントやレモングラス、カモミール、ローズマリーなど、ハーブティやお料理に使えたり、ハーブバスが楽しめるような代表的なハーブを少量ずつ植えてみました。何もなくてもすくすくと育つものがある一方で、きちんと水やりや手入れをしても育ちが悪いものがあつたりと、俵山の気候に合うものと合わないものがあつて面白い実験でした。

今後は俵山の気候にあつたハーブを多めに植えて、俵山へいらした方々へハーブティをお出ししたり、俵山のお土産として持ち帰ってもらえるような商品を作ってみたいと思案中です。

俵山温泉はリトリートの聖地

ここ俵山は1000年前から心身の疲れを癒す湯治場だったことから、心身を整えるリトリートをするのにピッタリな場所です。心身に疲れが出ている方はもちろん不調のない方でも日常から一時離れ、俵山で温泉に入ったり

のんびりと過ごすことで、心身をリフレッシュできます。

本当に望んでいるのはどんな未来なのかを見つめ直しにいらしていませんか？

ハーブティをお出ししたり、マッサージをしたり、リトリートを企画することで、今後の方向性やビジョンを見出したり、自分にとって大切なことに気づく機会を提供できたらいいなと思っています。どうぞ、俵山へ遊びにいらしてくださいね。



井上芽衣

地域開発マネージャー(見習い)

推しの気持ち、高まる

依山温泉に引越してきて、早一年が経ちました。3泊4日の湯治旅ですっかり依山温泉が好きになり、その後1ヶ月のお試し移住を2回行って引越してきた私は、来る前から依山温泉のことを知った気になっていたらけれど、今は住めば住むほど新しい顔を見られ、「推し」の気持ちが高まる日々です。

特に依山の魅力にどっぷり浸かるきっかけとなったのは、湯町で明治か

いのうえ めい 1995年兵庫県加古川市生まれ。京都の大学にて、農学部食料・環境経済科を卒業。「すべての人が安心して自分らしく暮らせる地域の基盤をつくる」べく、地域やコミュニティに関する事業の立ち上げや成長支援を実践中。依山での暮らしを基盤に、全国の過疎地へ赴いている。最近絵を描き始めた「アーティスト」見習いでもある。依山の一番好きな場所は、熊野山の山頂。初心を思い出す場所。



ら続いてきた「温泉祭り」の運営への参加、そして農産物直売所の運営を一部担当したことでした。

コロナ禍で3年間開催されていなかったお祭りを、地域の長老・宮野さんの「今年はやる！」の一言で、依山ビレッジの若手あずきさんと恵輔さん、私に声がかかり、当日のスケジュール作成から、屋台の手配、ポスター作成、会計係などできることで携わりました。また、農産物直売所は農家の自治組織から「たわらやまの旅と未来会議」がその運営を引き継いだことをきっかけに、裏方仕事を担当してきました。

なんでもない自分で、精一杯！

おかげさまで、温泉まつりは人で溢れ、温泉街を練り歩いたパレードはなんとも言えない至福の空気感に包まれました。農産物直売所は、出荷量も順調に回復し、ぴかぴかの野菜たちと出会える機会をいただいて、ちいさな里山で耕され続けてきた土地の豊かさを感ずることができました。

数十年、何世代にも渡って地域を愛し続けてきた皆さんと活動を共にすると「なんでもない自分」をひしひしと感じます。何十年営みを重ねて来られた方には到底、叶わないのです。だから私のやることは、

これまでの積み重ねに首を垂れ、今持っている精一杯の力をとにかく出すこと。余すことなく楽しみ、足りなければ心から謝って、補ってもらったことに、感謝すること。東京・虎ノ門のビル街で大手企業をクライアントに「私にこの会社の社運がかかっている！」と意気込んでいた私を、微笑ましく思えるくらいには、自然体に近づいてきたように感じます。

地域みんなが親戚のよう

なんでもない、ちいさな私でも、ここにいていい。そう思うことに無駄な力が抜けていき、依山温泉の暮らしに溶けていく感覚を覚えます。そんな依山で人生のパートナーとも出会い、2023年に入籍しました。する

とますます、ビレッジの家族、地域の方々、そして遠くにいる家族や友人まで同様に、大切にしたい想いが増してきました。私にとって依山温泉は、地域のみんなが『親戚付き合い』ができる大好きな場所。家族のぬくもりが当たり前でないご時世だからこそ、ちいさな私の充足が世界中の人たちへ届くことを願って、今日もまた依山で暮らしを続けます。



俵山と繋がる、暮らしをつくる、そして家族になる。

オンラインメンバーシップ「MURABITO」
2期が始まっています！

MURABITOは、

「いつか地域に根ざして丁寧に暮らしたい」

あなたのためにつくられました。

あなたと周りの方々がもつと幸せに豊かになる暮らしは、

今いる場所から、少しずつ作ってゆくことが可能です。

「暮らしを作る体験」を、MURABITOで一緒にしましょう！

俵山ビレッジの日々の日常は、1100年前から続く変わらない癒しと休息の磁場を持つ湯治場を舞台に、移り住む人、訪れる人、地域の人・・・様々な人や動物・植物たちの願いによって変化し続けています。

20年使われていなかった別荘が、仲間が集い交流するコミュニティカフェに、リトリート施設に。それらはすべて人々の願いと手によって形になったものです。日々変わり続ける俵山ビレッジの日常を感じ、参加することで、みなさんの日常も自分らしく変化してゆく。遠くにいてもつながり続け、互いの場所の暮らしを豊かにしていく、遠くにいる家族のようあなたたかいつながりがここにあります。

MURABITO で できること

月1回のオンライン交流会で俵山ビレッジの様子を知る

DIYや味噌づくりなど俵山ビレッジの暮らしを作るプロジェクトに参加する

実際に訪問し参加特典の宿泊チケットを使って楽しむ

MURABITOのメンバー同士で助け合い互いの暮らしを作りあう

「いつか」自分に合った地域を見つけて作りながら住んでみたいなら、
「今」いる場所から、俵山ビレッジを応援し、村づくりに参加してみませんか？
月額約916円からご参加いただけます。



俵山ビレッジと地域

俵山ビレッジでは地域との共生を大事にしています。

ご相談はビレッジメンバーへのお声かけか、灯炬庵までお気軽にお越しください。

- 源泉の清掃
- 粗大ゴミ出し
- 地元消防団災害復旧活動
- ゆずきちの木の剪定
- 実生ゆず手絞り加工
- 引っ越し作業
- 草刈り
- 竹藪手入れ
- お祭り運営
- 干し柿づくり
- 正福寺イベント出店
- しめ縄づくり
- など



関わり方いろいろ

今までのお手伝いの一部をご紹介します！

俵山に行こう

俵山ビレッジに滞在を希望される場合、ゲストとして宿泊施設に滞在する形または、ボランティアスタッフとして滞在する形の2種類があります。

ボランティアスタッフとして滞在する

「俵山ビレッジの暮らしにどっぷり浸かりたい」という方へ。期間は最低5日以上、1日3～5時間のお手伝いをさせていただくことで、宿泊と食事(昼・夜)をご用意します。

ゲストとして宿泊施設に滞在する

「俵山ビレッジの暮らしを覗いてみたい」という方へ。俵山ビレッジの住民などと食卓を囲んだり、拠点を見学したり、想い想いの過ごし方を楽しんでください。

ご用意できること

部屋：1グループあたり1個室(和室または洋室)
設備：キッチン(調理器具、食器類一式)・シャワー・お風呂
アメニティー：タオル

連泊の場合、お布団の上げ下ろし、シーツの交換はセルフサービスです。

予約はこちらから

公式LINEよりお名前、滞在形式、滞在希望日程を明記の上、お問い合わせください。



シェアハウス灯炬庵 ゲストルーム

6畳の和室に窓と引き戸のある簡素なお部屋です。初夏、温泉上がりにゴロンと寝転べば、爽やかな風が吹き抜け、極上の心地よさに包まれます。冬はちょっと冷え込むのでエアコンや灯油ストーブを使ってくださいね。



俵山ビレッジの1棟目のシェアハウス。琉球漆喰の壁と板間に囲まれた空間に薪のストーブがあり、一枚板の大きなテーブルにたくさんの人々が集って食事をし、食卓での出会いと対話を楽しんでいます。ゲストルームの横には、シェアハウスが2部屋あり、俵山ビレッジの住民との共同生活も体験できます。

滞在の部屋紹介
ビレッジどこに泊まる？
滞在のかたちに合わせて
色々な部屋がある俵山ビレッジ。
あなたはどこに泊まりたい？

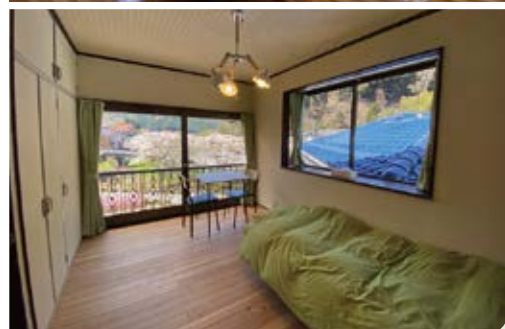
記事 井上芽衣

コミュニティカフェ Entrance Umi/Mori

コミュニティカフェEntrance最上階にある2つのシェフルーム。カフェやラウンジで料理を提供するシェフや、レンタルサロンで整体や施術を提供するセラピストが滞在することを想定した部屋が整えられています。



町の全体が見渡せる気持ちいい眺めと共に「Umi」にはダブルベッド、「Mori」にはシングルベッドが設置されています。ペアで滞在を希望するなら「Umi」での滞在がおすすめです。2階にはトイレと大きなキッチンが併設されています。町の湯で温泉を堪能したり、徒歩3分の灯炬庵のお風呂の利用も可能です。

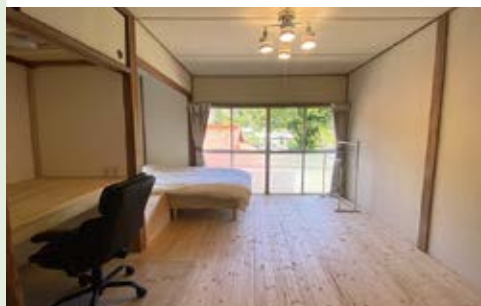


ゲストハウス cococara

灯炬庵から歩いて20秒ほどに位置し、3つの個室とダイニングキッチン、お風呂が併設されたゲストハウスです。お試し移住やワーケーションなどの中長期滞在を通じて、俵山ビレッジでの暮らしを体感するにはぴったりの施設。



冷蔵庫や電子レンジ、食器類など一式が揃ったキッチンとダイニング、お風呂が併設されているので、この拠点だけでも暮らしが完結できます。



無垢材の板間に、デスクとセミダブルベッドが設置されたお部屋。デスクワークをしながら俵山に滞在する方に。



漆喰と廃材を使った木の温もりあふれる真ん中のお部屋。デスクとシングルベッド、クローゼットあり。



壁に俵山の竹を設えた、畳のお部屋。ヨガや坐禅などにぴったりの雰囲気。押し入れをリノベーションしたデスクと本棚も。

kuleana スタッフルーム(仮)

ゲストハウスcococaraの斜め向かいにある、ボランティアスタッフが滞在するための拠点。キッチンとダイニングは簡素なので、徒歩20秒の灯炬庵と行き来しすることで充実した滞在に。



畳の上にシングルベッドが2つ設置されているお部屋。障子で区切れば2部屋となり、2組の滞在が可能です。窓際のカウンターに座れば、目前に広がる俵山の山々の圧巻の景色が。自分自身の気持ちや、これからのやりたいこと、俵山の未来に想いを馳せるための特等席です。

鎌形泰

花咲か爺さん

美しき天然

これは、僕が湯町を練り歩いた時にいつの間にかポケット入っていた手帳から書き写したものです。黒革のカバーは擦り切れ汚れ、肌身離さず長い間持ち歩かれていたことが感じられます。道化師の姿をした僕に手渡された記憶のような気がして、読みにくい字でしたが時間をかけてたどりました。

【ある男の手記】

・○月○日晴まだ肌寒さが残るも空気は春をはらんでいる
極めて慎重にかからなければならぬ。何故こうしているかを忘れてはならない。あつてはならないのだ。わからないことは人々を不安にさせる。た

東京 東
やすし 京
かまがた やすし 東京
都出身。クリエイター。
本誌編集制作チームの
末席。



とえそれが視野の外にある美しい景色だとしても。景色などという言葉を使っていることがすでに私も不安定な足場に踏み出している証拠だ。落ち着いて気配をなじませる。無色ではなく多少手垢じみた色を周囲に匂わせておくことは疑われないための心得だ。やるべき事を見失ってはいけない。陽だまりのそばに老婆が座っている。挨拶。媚びのない愛想に気を許しそうになる。危険！

・○月○日曇山間からの弱い日差しと湿り気が静かさを、k y h(文末不鮮明)
滞りのない潜入から早くも○ヶ月。やはり本部からの情報に間違いは無かったようだ。あおはようございます。雨になりますかね。ありがとうございます。います美味しいですよ。これ。社会を成り立たせている総和は盲目的な定義に支えられていたはずだ。基礎が揺れては上に建つものも傾いてしまう。サングラスをかけて見え過ぎないように。暮らす。そういうえば一昨日の大雨で裏手の斜面は崩れなかっただろうか。心配。後で○○宅へ様子を見に行こう。小鳥が地面を歩いている。

・○月○日晴歩くとき汗ばむ程度の暖かさが心地よd、y g、(文末不鮮明)
事実というのはいくらでも変わるものである。それで良いのではないか。子鯨の唐揚げは驚くほど旨かった。源泉は丁寧な管理されていて解析が不能。本部との連絡が途切れがちである。報告が進まず。忘れてはならない。該当の拠点や周辺環境に特殊な仕掛けは見つけられない。何かの薬物が使用されている痕跡もなく、p、k s q (インクの滲みで解読不能)。○氏と次の催しの準備に向かう。湯は空いているだろうか。入りたい。

・○月○日雨川面に降り注ぐ水音に、7 t f c b、(涙の跡か解読不能)
○解放戦線の状況はどうなっているのだろうか。最後にいつ指示を受け取ったか記憶が定まらない。鹿の呼び声が澄んでいる。もとより本部などというものはあったのだろうか。私を定義づけていた手がかり。先々月のメモを焼却処分前に読む。確かに極めて短期間の間に三組もの成婚。異常な数値である。少し遅い程度の時間に橋の縁まで行こう。今年の螢はあの場所だ。彼等にも教えてやらなければ。たった今手にしていたはずの万年筆がどこにも見つからない。

(手帳はここから数十ページ分ほど破り取られている)

・○月○日晴(詳細無表記)
Eureka! ついにものにした! そうだったのだ。地面というものは重さであると技師である祖父が語るのを耳にしたことがある。私は地面を失う代わりに透明の、u r、s p i、b h q (土か手の跡で解読不能) そろそろ皆のところに行き来客のためのご馳走を調べよう。某国での料理経験が活かせるのは想定外であった。いや想定自体に意味が無かったというべきか。断熱保温性の高い設計の薪窯。火を入れ温度を上げておこう。やるべきことはいつでも決まっています。自由だ。選択肢の不要な解放。

・今日晴(記述忘れか詳細無表記)
久方ぶりに車にて移動し彼女の郷である隣の海へ。昨夜は籍を入れた後に二人で美しい景色を眺めていた。家族への土産物は海のものが多いだろう。はい。こんにちは。ええ。大好きです。私もこれ。青から緑への諧調。上着を脱ぎ海風に向かう。私達は途絶えることなく寄せ打つ安心に洗われ歩く。生まれて初めて見た気がする。ほど花が咲いている。手を繋いでいる。誰からも見えなかったはずの私は無防備にここに現れている。そして忘れることを忘れていた。

鎌形 美砂子

グラフィックデザイナー

荷物は少なめに

象をまる飲みしたうわばみの気持ちを考えることが、たまにある。「やった！大物ゲットしたぜ」だったのか、それとも「あれ？こんなはずじゃ」だったのか。獲物を得て栄養を取れるのはいいが、半年間も「こなす」まで動けないのは困るのではないか。いらぬ心配である。

像をして楽しめるのが田舎のいいところであると私は思う。

東京の下町の辺境で生まれ育った私は幼い頃からよくちんどん屋さんを見ていた。いつも駅前にいるのだ。決まって「あの曲」を奏で、サンドイッチマンの背中とお腹にはパチンコ屋か

何かの宣伝文句が書いてある。のちに知るのだが、ちんどん屋さんたちはその辺に住んでいる人だった。子供目線に憧れと憐憫の入り混じった感情を寄せていたが、まさか大人になっ

た自分がそれをするようになることは夢にも思わなかった。いや、考えてなかっただけで、よく考えたらやりたかったかもとすら思った。温泉まつりの準備をライトに手伝わつても、気づいたらちんどん屋をやっていた。

俵山ビレッジは人生に予想を超えることを提供してくれる。そういう予想の超えかただとは知らなかった。

P.Y.T.たち

野鳥の声が電子音に聴こえる腐れた脳を癒しに数ヶ月に一度、俵山ビレッジに來ている。ここの住人たちは男女問わず若くて可愛い。存在自体が可愛い。皆真面目でびっくりするほど真剣に自己のこと人生のことを考えているのである。そこでいかに自分がいい加減になんとなく無自覚に生きてきたかに気付かされる。とはいえ人間いきなり「気づき」をもらえまして「とばかりに真面目で真剣な人物になれる訳でもなく、流されやすい方に流れるのだ。だから私は時々流れを確かめるように俵山へ来る。立ち止まって見つめ直すために。いや、考えすぎると落ち込むので、考えすぎないように考えようという甘い気分であれば過ごしたい。野鳥の声を聴きながら、健全なダウンを目指して。

かまがた みさこ

東京都葛飾区生まれ。デザイナー。本誌編集制作チームのボス。



倉谷賢人

イベント・何でも屋

俵山ビレッジに弾丸移住

自分にとって「自分らしさって?」「自分には何ができるのか?」と悩んでいた2023年5月末。

広島市にあるコミュニティスペースを運営する変風さんに俵山ビレッジを紹介して貰いました。その翌週に変風さんと初の俵山を2日間満喫し、移住を決断。7月10日に俵山に移住して来ました。

移住の決め手は、一言で言うと「楽しいことがたくさん出来て面白そう」と思ったから。移住して感じたことは「移住して正解!!!」

俵山に関わる仕事がしたい「よろず屋ケンティ」

一日三回は入りたい温泉好き。と言うことで町の湯の番台に立たせて貰っています。

観光で来られた方だけでなく地元の方にも愛される町の湯のお手伝いをさせて貰い、たくさんの方に声を掛けられるようになりました。

くらたに けんと 1988年広島県東広島市出身。高卒で電力会社に就職。13年間、発電所の運転や保守に従事。労働組合の役員として、夏祭りや全国規模のイベント運営など経験。退職後、東京のセミナー会社や静岡県のファスティング施設などを流れて任せてフラフラ。その他にもコーチングやヒーリングなども。恵輔に命名され、みんなから『ケンティ』と呼ばれています。



高齢化と人手不足が進む俵山では頼まれ事がいっぱい。「重たい荷物を運んで欲しい」「草刈りをして欲しい」「ベッドを組み立てて欲しい」など。俵山ビレッジでもリノベや電気工事を頼まれることが増え、いつの間にかよろず屋と言う称号を頂きました。大ちゃんのお父さんに網戸の張替えを教えて貰い、旅館さんにも張り替えを頼まれることも。

頼られることで、自分の命を活かされていると感じる日々を過ごしています。

同居人は黒龍、白龍

喫茶呼に住み始め、翌月9月には生後4ヶ月の猫2匹を迎え入れ、一緒に暮らしています。

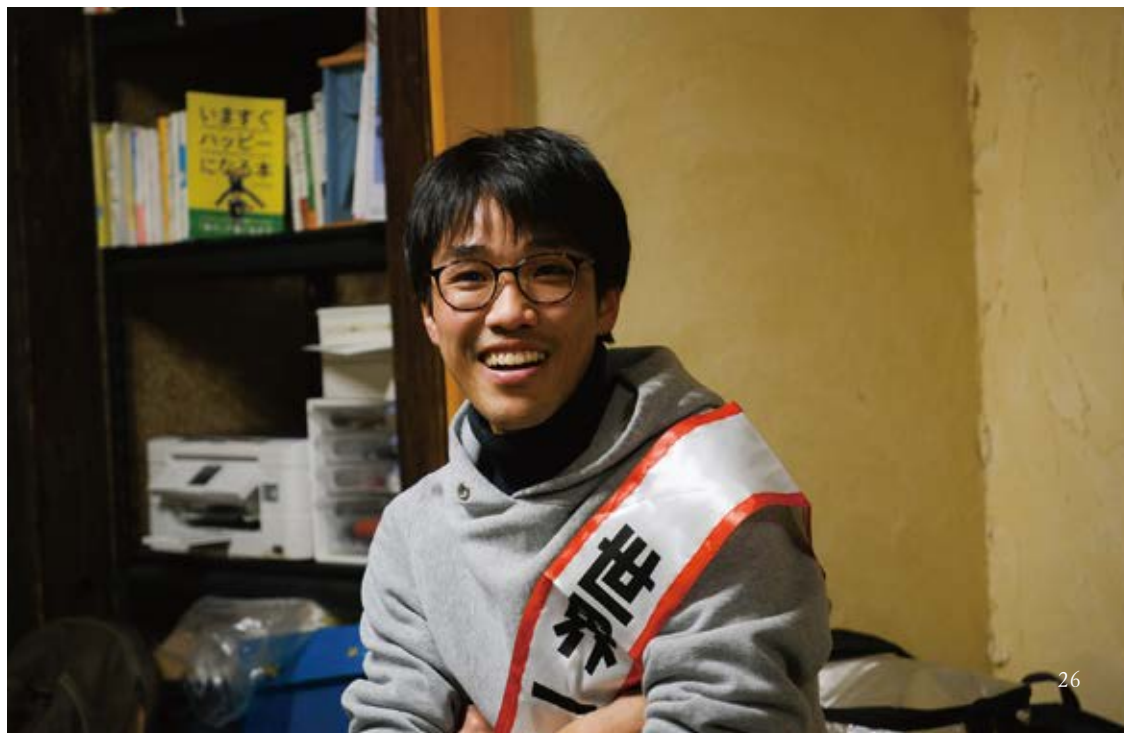
道端に捨てられた子猫を保護した旅館さんから、俵山ビレッジが引き取りました。初日は旅館から出るだけで一苦労。家に来てからも落ち着きのない日々でしたが、今では人懐っこく、冬の夜は布団に入ってから一緒に寝てくれます。

ここが好きだよ俵山

俵山は『人と繋がる時間』と『自分と繋がる時間』をバランスよく味わえる場所だと思います。

色んな経験や多様な価値観を持った住民や来訪者と、料理やDIYなどを通して学びや笑いを貰えています。そしてアースオーブン作りや、BBQ、川遊びなどみんなと楽しめる遊びやイベントがたくさん。自分と繋がりたい時は、温泉での

んびりしたり、自然の中でぼーっとしたり、自分の部屋でゆっくり内省できる(ちなみに僕が一番好きなのは熊野山の山頂で風を感じながらぼーっとすること)。どちらを選択するかを尊重してくれる住民の距離感も僕が好きなところですよ。



石田 香織

オーガニックプランナー／ソーシャルグッドプロデューサー

溢れる可能性が広がる俵山温泉

—この地域とコミュニティなら万が一の災害などでインフラがダウンしたとしても生きていける—

若い頃から環境問題に取り組んできた私は、気候変動から来る災害が増えていることを踏まえ、いざという時に生きていくための居場所づくりをしたいと考えていました。

北海道から飛行機、新幹線やバスを乗り継いで辿り着く別世界。来る

いしだ かおり 北海道生まれ／人と地球に嬉しい楽しいことをモットーに環境保護や海外支援の活動を10代から始める。ボランティアをするためにお金を稼ぐことに疑問を覚え、お金を稼ぐこと＝社会に良いことにつながるよう事業化。札幌市街でオーガニック居酒屋、レストラン、小売店経営を経て、他社のメニュー開発や有機農畜産加工品の商品開発など、食にまつわる業務がメイン。2023年に俵山ビレッジに参画。



度に、なにもないように見えるけれど「ここには絶対になにかがある」惹きつけられるように俵山に通い、地域の人に出会い、大地に出会い、人々の暮らしに出会って来た中で温泉や文化を絆ぎ、守っていくことが中心にある暮らしに美しさを感じるようになりました。

飲食業を営んできた私にとって、食べ物がおいしいのは絶対条件。

山々に囲まれる俵山温泉ですがその周辺には川や滝に棚田畑、そして海が広がり豊かな自然のアクティビティにも恵まれた環境です。山間ならではの寒暖差や水の豊かさが食べ物を美味しく、たくましく育ててくれる。

米や野菜はもちろん、魚や肉もおいしいものが溢れている俵山、ここで生きていきたいと9月に移住をしました。

一方で、過疎化によって耕作放棄地や山の管理が行き届かなくなってきたという現状も

知ることになります。

山を知るために地域の素材を集めてアースオーブンをつくり、地域の木から火を起こして、ピザを焼く。もちろんピザの具材は地域の食材。

そんな風に「おいしい」からつながっていく地域資源の魅力を伝えていくと同時に、地域で活躍する農家や林業の方ともつながりコミュニティに巻き込んでいく。

互いにとっておいしく楽しい関係性ができた時に、新しく生まれてくるなにかがとても楽しみで今を暮らしています。

この先もおいしい未来がずっと続いていくように田畑の環境だけでなく、山や森、川や海の保全活動もしながら、おいしいものをつくり、食べていく。そんなことを地域の人たちにも教わりながら、若い子たちと一緒にできたらと思っています。有事の際には地域で食べて暮らしていける、何もなければ俵山ビレッジのみんなや訪れる方々と楽しく自然の中で遊びながら地球を感じて地球に学ぶ、そんな暮らしを2024年は作っていきます。



翁長史佳

俵山ビレッジコンシェルジュ

「ファミコミュニティ」という手応え

人生ひと巡り、還暦(60歳)までの3年間を「どこで誰と何をして過ごしたいか」という問いがお腹の底から湧いてきたある日、まるでこの日を待ちわびていたかのように目の前に現れたのが「俵山」で「俵山に居る人たち」と「暮らす」ことでした。

私を生み育んでくれた美しい島沖縄を飛び立ち、今ここ俵山で暮らしています。

おなが ふみか セルフリニューアルの専門家。喜びの文化を創ることをミッションに、女性の子育て・人育て・自分育てを応援する活動を行いながら、メンタルトレーナー・心コンシェルジュとしてセッションや講座を通して個人の潜在的自分力の発見をサポートする。コミュニティ活動の一環として組織の成長・成熟を導くリーダー育成に取り組んでいる。2023年夏沖縄から俵山に移住。俵山ビレッジ10棟目の物件「いのちのあそび場 meguri」運営メンバー。

里山での毎日は本当に新鮮！目に映る景色や聴こえてくる音、鼻をくすぐる自然の香りなどなど、五感がばんぱかばぁーんと目覚めていくのを感じます。

この豊かな自然と、ささやかでも「確かなつながり」をゴハンにしている心とカラダの力をつけていけるって凄いなー、ありがたいなーと思う毎日です。

俵山住民としてまだまだ初心者マークの私は、今のところいただいてばかり。

さて、何をお返しでしょうか、私が出来る何と交換できるかな？を考えるのが今イチバンの楽しみです。

これまでの人生で、人様のお口の健康をクリエイトしたり(歯医者)、対話を通して心の豊かさを磨く伝え手となったり(心コンシェルジュ)、女性向けに自己成長のための機会と場創り(おきなわ女性みらい塾)をしたりと様々な活動を展開してきました。そのどれもに共通するのが『喜びのわかちあい』です。

一人一人がいつでも堂々と喜びの

選択をすることです。イチバン好きな自分を生きる。

そんな「喜びの文化」をここ俵山で、俵山ビレッジのみんなと創造していけたらいいなく、そうならたらコリヤたまらなく嬉しいな〜！と今日もまた一人ニヤけています。

コロナ禍で体験したオンライン上でのつながりという新しいリアルティを経て、実体のあるコミュニティを追い求めて辿り着いた俵山ビレッジは、家族やコミュニティというキーワードを統合しさらにその領域を超えたところにある「ファミコミュニティ」という確かな手応えを感じさせてくれています。

まずはこの安心感に抱かれながら、頼もしく愉快な仲間と「大丈夫。安心して悩むといいよ」という優しい世界を体現していきますね。

「暮らし」を共に、自然と自分とつ

ながり直し、結び直し、一緒に本来の力を思い出していきますか。

そして今度はあなたから必要な誰かに言っただけよう。

「大丈夫。ここからまたはじめたらいいよ」と。



Life in the **TAWARAYAMA VILLAGE**



2023

2023年スタート

活動レポート

俵山ビレッジ 1年間の ストーリー

記事 井上 芽衣



Jan.

地元の方々と連なり、俵山最高峰の**一位ヶ岳**で**ご来光**を眺める新年の始まり。3棟目の拠点ゲストハウスにするべく、**リノベーション**を敢行。3室の個室がぞくぞくと新しい姿に生まれ変わっていった。沖縄から来て1年ほど喫茶呼に住んでいたまぎーとのりちゃんがお米づくりを学ぶため、2拠点生活のみくが四国で衣食住を学ぶため卒業。NHKの取材、長野や沖縄への家族旅行、**健康マルシェ**と年明けから盛りだくさん！



Mar.



Feb.



Apr.

地域での夜桜会を今年も楽しんだ。タケノコや山菜など土地の恵みも沢山収穫し、俵山の春を満喫。そして50キロもの「手前味噌」の仕込みを行った。今年もアースデイは盛況。また、俵山ビレッジの若手が運営を担った年に一度の大切なお祭り「**俵山温泉まつり**」も**4年ぶりに開催**！温泉音頭を踊りながらメイン通りを練り歩き、昔の賑わいを感じる情景に一同感動。**呼吸法**や**ヨガ**など健康のスペシャリストの合宿も続々と開催された。ビレッジ初のいきもの「ニワトリ」を飼うべくHANAREに**鶏小屋**を製作！

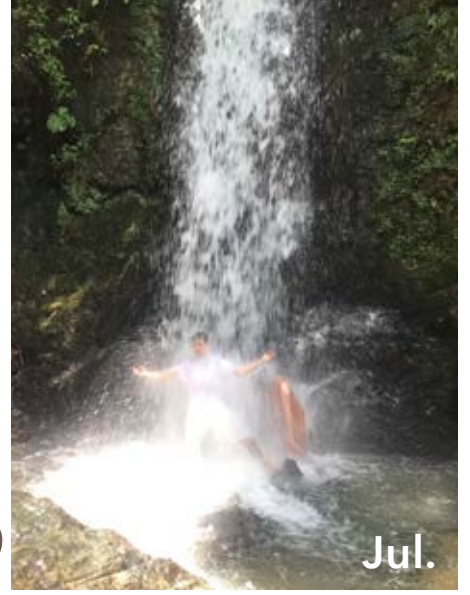


May



Jun.

お盆には、たくさんの湯治客を迎え入れた地域の方々を労うためのお祭り「**納涼祭**」の**実行委員**も俵山ビレッジの若手が参加。ミュージシャンYOUさん一同のライブなども行われ、雨足も強くなる中皆で輪になって盆踊りを踊った。Entranceの広場には、俵山の土や素材を練って皆で作った**アースオープン**も導入、美味しい釜焼きピザが食べられるように！全国からMURABITOも大集合。**念願のネコ**も家族に。そして、新たに広島からケンティ、沖縄からふみかさん、北海道からかおりさんも加わり、14人の大所帯に！



収穫の秋。生後10日目のひよこを譲り受け灯炬庵で育て、鶏小屋に放つ。幼稚園・小学校と地域の方との合同開催で、**4年ぶりの運動会**。地域の子どもの成長や交流を楽しんだ。世界的DJ TAKAさんをお呼びして味噌蔵で行われる**発酵Disco**を開催！VDJのシンクさんも加わり、合法的に「飛ぶ」最高の体験。9棟目の建物を、ボランティアスタッフのための滞在場所としてリノベ、10棟目の建物を、ナノミストサウナが設置された合宿場へと改装。ビレッジ初のクラファンでは、700万を超えるご支援をいただいた。そして15人目の移住者、トキちゃんが合流！地域の風土・伝統に息づく**しめ縄づくり**も参加。

そして
2024年へ



拠点が12ヶ所、住民が15名、MURABITOが115名となり大所帯となった俵山ビレッジ。2023年は「健康のディズニーランド」として拠点がどんどん活用され、来た人が健康になる場所へと進化する。今年も地域と共に変化し続ける俵山ビレッジにご注目ください！

